

TGG の生徒たちとのクッキー作りとゲーム

奥羽聖華、渡邊夏、陳梓洋
(都立北園高校)

2018年11月3日、北園高校に来校中のパートナー校であるテレッタ・グロース・ギムナジウム (TGG) の生徒たちと、日本のパッシュ校の生徒たちが集まり、ゲーテ・インスティテュート主催のイベントが北園高校で行われました。この日は全体で2つのグループに分かれ、それぞれ班ごとにクッキーを焼いたり、ドイツの一般的なゲームを通じて交流を図りました。

クッキー焼きでは、事前に配布されたドイツ語のレシピを班の皆で英語やドイツ語を交えて協力しながら解釈し、生地を練り、レモンの皮を入れ、シナモンを混ぜ合わせて生地を完成させました。はじめはお互いのコミュニケーションに慣れませんでしたが、時間がたつにつれて仲も深まり、徐々に楽しく作業をすることができました。その後、生地を伸ばして、シンデレラ、馬、流れ星、クリスマスツリーなど、様々な型を作って型抜きをしました。皆で型抜きをしていると、TGGの男子生徒が、流れ星、シンデレラ、馬の型を使って自作の物語を表現し始めました。彼は英語も話せて、先生に積極的に質問もあり、併まいも大人っぽかったです。それをみてやはり私たちと同年代の若者なのだと安心しました。作業の過程で最も驚いたことは、TGGの生徒が生地を型で抜き終えた後、余った生地をそのまま食べ始めたことです。ドイツでは、当たり前のことのようですが、日本では私たちは、「食べるとお腹を壊す」と教えられてきたので、この文化的な違いには大変驚きました。彼に促されて試しに食べてみたものの、焼きあがる前の生地はそれほど美味しいものではありませんでした。完成した型をそれぞれの班がオープンに入れ、10分後に焼きあがった際には、部屋中にクッキーのいい香りが立ち込めました。クッキーが冷めたところで、砂糖水やチョコレートなどでデコレーションをして出来上がりました。どの班も個性的なクッキーを仕上げ、自作のクッキーの味を分かち合いました。

ドイツ版のゲームでは、日本にも馴染みのあるカードゲームやジェンガ、それ以外にもドイツの一般的なボードゲームなど、様々なゲームが用意されていました。私たちに特に印象に残ったゲームは「ハリガリ」です。これは、全員に配られたカードを順番にめくっていき、同じ果物が5個揃ったら素早く鐘を鳴らすというゲームです。日本では全く経験したことがなかったため、初めはルールを覚えるのが大変でした。同じテーブルにいたTGGの生徒とカトリーン先生は、当然ながら慣れていたので、そのスピードに驚かされました。しかし、これもやはり慣れてくることで徐々に私たちも彼女らと同じくらいの速さで取り組むことができました。この他にも、「ミカド」というゲームを行いました。文献によると、このゲームはヨーロッパでは大変有名で、ヨーロッパの人々が日本をイメージして作ったゲームのようです。実際にやってみると、ゲームの中にも「サムライ」といった日本の単語が入っていました。TGGのロット校長先生がゲームのやり方を丁寧に教えてくれたので、私たちもこのような未知のゲームを十分に楽しむことができました。

このイベントでは、TGGの生徒だけでなく、他のパッシュ校生とも交流を持つことができました。また、様々なゲームを通じて、他国の文化を知る良い機会となりました。そしてなにより、そのような場を通じてお互いのコミュニケーションが最後には自然にできたことが嬉しかったです。